

鳥獣の 被害対策

イノシシ用侵入防止柵の評価

～ 飼育イノシシを用いた既存防止柵の効果試験 ～

研究目的

イノシシによる農作物被害を防ぐため、様々な種類の防止柵が使用されていますが、その効果について行動学的な検討は少ないのが現状です。

そこで、これまで使われてきた侵入防止柵の効果を飼育イノシシを使って検証しました。

研究概要と成果

- 2006年7～10月、当センターで飼育しているイノシシ6頭（成獣オス4頭、成獣メス1頭、幼獣オス1頭）を用いて、侵入防止柵を突破するまでの時間を計測して比較しました。その結果、電気柵、ワイヤーメッシュ柵、トタン柵は有刺鉄線柵、防風ネット柵、軽量パネル柵および金網フェンスに比べて突破までに長時間を要したことから、侵入されにくいと考えられました（図1）。
- 電気柵は高い侵入防止効果を認めましたが、電気刺激を効果的に与えられない場合（とくに幼獣）には侵入される危険性がありました。
- 本試験に使用したいずれの侵入防止柵もイノシシの身体能力に対して、強度や高さなどの弱点があることを確認しました。
- これらの柵を実際に農地で使用する際には、それぞれの柵の欠点を考慮した上で複数の柵を組み合わせることによって侵入防止効果を高める必要があると考えられます。



図1 各防止柵を突破するまでの時間



ワイヤーメッシュ柵を跳び越えるイノシシ



防風ネット柵を引っ張るイノシシ



有刺鉄線柵をくぐり抜けるイノシシ



電線に接触を試みるイノシシ

成果の活用

侵入防止柵を農地で使用する際の効果的な設置法の普及に役立てます。



MOUNTAINOUS REGION RESEARCH CENTER
島根県 中山間地域研究センター

〒690-3405 島根県飯石郡飯南町上来島1207

所属グループ 鳥獣対策グループ

担当研究者 竹下 幸広(たけした ゆきひろ)

問い合わせ先 0854-76-3818

E-mail chusankan@pref.shimane.lg.jp

試験研究課題名: イノシシの生態解明と農作物被害防止技術の開発(研究期間: H15～18)